

本州産トホシハナカミキリについて

—1 亜種の置換名提唱—

平山 洋人

Notes on *Brachyta danilevskiyi* Tshernyshev et Dubatolov, 2005 (Coleoptera, Cerambycidae)

in Honshu, Japan

by hiroto Hirayama*

トホシハナカミキリ (チシマトホシハナカミキリ) は、千島列島から北海道、本州に産し、本州では高山帯に生息する。本種の学名の扱いは、林 (1984)¹⁾ までは同属別種のカラフトトホシハナカミキリ (亜種扱い) と一括して、*Brachyta interrogationis* (Linnaeus, 1758) が用いられていたが、草間・高桑 (1984)²⁾ はこれらを別種としたうえで、トホシハナについては林 (1984)¹⁾ が亜種とした *punctata* (Faldermann, 1833) を昇格させ *Brachyta punctata* (Faldermann, 1833) としている。この扱いはその後の大林 (1992)³⁾ でも踏襲されたが、大林 (2007)⁴⁾ では種名に Tshernyshev & Dubatolov (2005)⁵⁾ により国後島から記載された *Brachyta danilevskiyi* が用いられ、千島列島、北海道、利尻島、本州が分布域とされている。

何故か従来のいずれの国内図鑑のシノニミック・リストでも見落とされているのだが、これの本州の集団には一度命名された学名が存在する。Fujimura (1956)⁶⁾ による *Evodinus* (s. str.) *interrogationis* f. *japonicus* がそれで、これは1960年以前の記載なので、命名規約上適格名とみなし得るが、*Evodinus bifasciata* var. *japonicus* Matsushita, 1933 (現在は亜種扱い; フタスジカタビロハナカミキリ) の一次ホモニム (異物同名) で無効名となる。この後両種は、Hayashi (1980)⁷⁾ により同時に *Brachyta* 属に移され、以降トホシハナカミキリについては前述の経緯をたどることになる。本州産の集団には、原亜種と比べて後に述べるような違いが認められるので、これを別亜種とし新置換名を与えたい。

トホシハナカミキリ本州亜種 (Figs. 1 ~ 12)

Brachyta danilevskiyi hanabusa Hirayama, nom. nov.

Evodinus (s. str.) *interrogationis* f. *japonicus* Fujimura,

1956. Preoccupied by *Evodinus bifasciatus* var.

japonicus Matsushita, 1933.

Evodinus interrogationis ab. *duodecimmaculatus*: Matsushita, 1933, *J. Fac. Agric. Hokkaido imp. Univ.* 34(2): 79 (Saghalien; Mt. Daitsu, Hokkaido; Etrofu Is., Kurile Is.; Mt. Shirouma, Nagano Pref.) (part.) [unavailable name].

原亜種に比べ、♂♀とも僅かながら確実に、触角が短い。触角長/体長は、北海道産では♂で平均0.75、♀で平均0.62であるのに対し、本州産では♂で平均0.71、♀で平均0.58 [以上♂♀各無作為抽出15頭計測] である。また、上翅会合部両側に位置する2対の大型黒紋を比べると、原亜種では上翅基部側の対と上翅先端側の対はほぼ同大か、むしろ基部側の対の方が大きくなるのに対し、本亜種では先端側の対の方が明らかに大きく、特に基部側の対は消失する個体 (Fig. 10) さえある点で区別できる。ちなみにFujimura (1956)⁶⁾ のいう「上翅端の斑紋は欠失する」は、確かにそのような個体もあるが、むしろ少数派である。

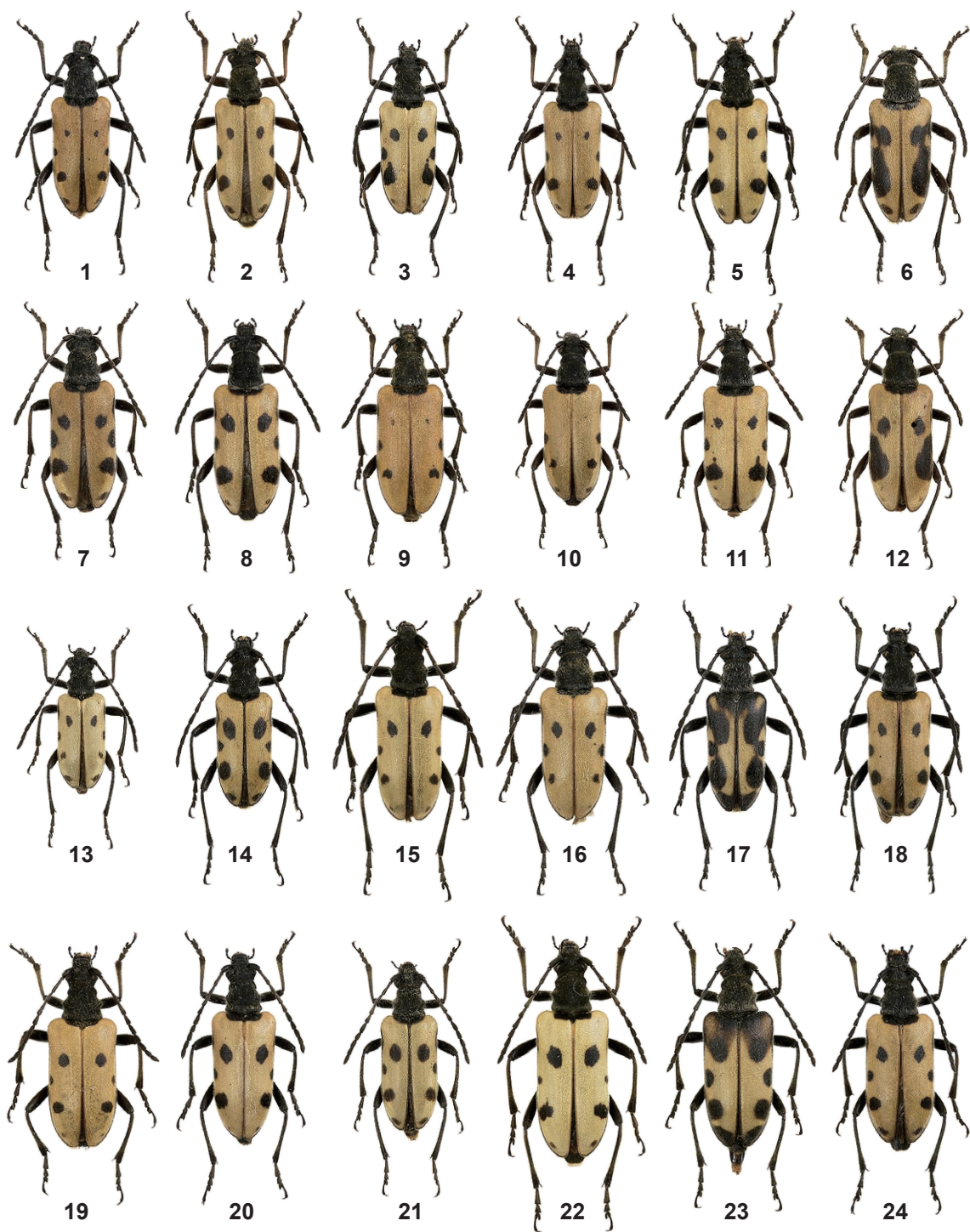
およそ2000m以上の高山帯でフウロソウやシナノキンバイ、ウサギギクなどの高山植物の花を好んで訪れ、生息地での個体数は必ずしも少なくない。クモマハナカミキリ、シララカハナカミキリなど他の亜高山性のハナカミキリと共にナナカマドやヤマブキシヨウマなどに訪花することもあるが、上記のフウロソウ、シナノキンバイ、ウサギギクといった“高山のお花畑”の草本の花に高山チョウと共に訪れているカミキリは本亜種だけである。このような生態から、草間・高桑 (1984)²⁾ は「本州では唯一の純高山種である」と述べている。

体長: ♂ 11.7 ~ 14.0mm, ♀ 11.1 ~ 16.0mm.

分布: 本州 (東北~中部地方の山岳地帯)

東北地方における分布は鳥海山、飯豊山塊、福島県南会津大杉岳、会津駒ヶ岳が知られ、奥羽山脈では秋田県朝日岳から標本が得られており、岩手県北上山地の早池峰山からも記録がある^{9) 10)}。

*) Author's address: Midori-chô 2-33-5-309, Fuchû-shi, Tokyo, 183-0006 Japan.



Figs. 1-12. *Brachyta danilevskyi hanabusa* nom. nov. (1-6: ♂; 7-12: ♀) — 1: 鳥海山; 2, 8: 飯豊連峰; 3: 妙高山塊天狗原山; 4: 南アルプス仙丈岳; 5: 南アルプス大樺沢; 6, 12: 北アルプス白馬岳; 7: 秋田県朝日岳; 9: 南アルプス千枚岳; 10: 南アルプス藪沢; 11: 北アルプス双六岳
 Figs. 13-24. *Brachyta danilevskyi danilevskyi* (13-18: ♂; 19-24: ♀) — 13, 14, 21: 北海道日高町日勝峠; 15, 22: 北海道札幌市豊平峡; 16, 17, 23: 北海道島牧村太平山; 18, 24: 北海道渡島半島大千軒岳; 19: 択捉島; 20: 利尻島

中部山岳域では目下のところ、北アルプス、中央アルプス⁸⁾、南アルプス、八ヶ岳山塊⁹⁾、妙高山塊より分布が知られる。なお、草間・高桑(1984)²⁾の本種の都道府県別分布図中、石川県および群馬県にも分布の斜線が引かれているが、石川県については分布の可能性があるとするれば白山であろうが、具体的な記録が見当たらず、近年の複数の調査でも確認されておらず分布は疑問である。また、群馬県についても同様に典拠不明で、実際の採集例も今回確認できなかった。

変異：総じて北アルプス北部から妙高山塊のものは上翅黒紋の発達がよく、上翅会合部両側の2対の紋のうち先端側の対が基部方向に流れ、ときに側部中央の紋と結合しかかったり(Fig. 11)、稀に完全に繋がる個体(Figs. 6, 12)も生じる。一方、南アルプスでは、黒紋の発達は全体に弱く、会合部両側の基部側の対が退化したり消失する(Figs. 9, 10)頻度は他産地に比べて高い。

亜種名は、高山植物のスケッチがてら、幼き日の筆者をこのカミキリや高山チョウの戯れる日本アルプスのお花畑へと誘い、その素晴らしさを教えてくれた日本画家である母・英子が、日本画の落款に用いている「英」の読み方にちなむ。

検視標本[南アルプス]:長野県長谷村仙丈岳22♂16♀, 同 藪沢4♂5♀, 山梨県芦安村北岳5♂5♀, 同 大樺沢8♂2♀, 山梨県韮崎市鳳凰山4♂2♀, 同 地蔵岳1♂3♀, 静岡県荒川岳1♂, 静岡県静岡市千枚岳23♂7♀, 同 三伏峠3♂2♀, 静岡県伊ザルガ岳1♀, 同 赤石岳1♂2♀

[北アルプス]:長野県安曇村槍ヶ岳2♂2♀, 同 明神岳2♀, 長野県大滝山~蝶ヶ岳12♂11♀, 長野県燕岳7♂2♀, 長野県赤沢岳1♂, 長野県烏帽子岳1♂, 長野県白馬岳1♂4♀, 長野県三股蓮華岳1♀, 岐阜県上宝村双六岳3♂5♀

[妙高山塊]:長野・新潟県境天狗原山16♂9♀

[東北地方]:秋田県田沢湖町朝日岳1♀, 山形県遊佐町鳥海山7♂3♀, 山形~福島県飯豊山塊3♂2♀, 福島県松枝岐村会津駒ヶ岳1♂1♀

Brachta danilevskiyi hanabusa nom. nov. (Figs. 1~12)

(Syntypes: 2♂, Mt. Tsubakuro, Japan Alps., Nagano Pref., July. 3. 1948, M. Takio leg.; 1♀, Kamikochi, Nagano Pref., July. 30. 1951, M. Okamoto leg.)

This subspecies is similar to the nominotypical subspecies, but differs from the latter in the following characteristics; antennae shorter, antennae length/body length=the mean 0.71 in male, the mean 0.58 in female (0.75 in male, 0.62 in

female in the latter from Hokkaido); in two pairs of large and black spots on both sides of sutural line of elytra, posterior spots clearly larger than anterior ones which occasionally disappeared (same size in both spots or almost anterior spots larger than posterior ones in the latter from Hokkaido).

This new subspecies is named after a sign and seal of Mrs. Hideko Hirayama who is a Japanese-style painter and mother of author.

Length: ♂, 10.7-14.0mm; ♀, 11.1-16.0mm.

Distribution: Honshu (Tohoku ~ Chubu area)

本報告にあたり、大林延夫博士には数々のご指導・ご助言および文献の提供をたまわった。また、野中勝博士、露木繁雄、小林敏男、神垣匡伸、佐藤敦、秋田勝己、進藤健朗の各氏(順不同)には標本の提供、貸与に関してご協力いただいた。記して感謝申し上げます。

付記: *Evodinus interrogationis* f. *japonicus* Fujimura, 1956のsyntypesの現存が確認でき次第、lectotypeの指定を行う所存である。

○引用文献

- 1) 林 匡夫, 1984. (林 匡夫・森本 桂・木元新作編著)「原色日本甲虫図鑑(IV)」: 12, pl. 3. 保育社, 大阪.
- 2) 草間慶一・高桑正敏, 1984. (日本鞘翅目学会編)「日本産カミキリ大図鑑」: 164-165, pl. 7. 講談社, 東京.
- 3) 大林延夫, 1992. (小島圭三・佐藤正孝・大林延夫編)「日本産カミキリムシ検索図説」: 86, 422. 東海大学出版会, 東京.
- 4) 大林延夫, 2007. (大林延夫・新里達也編)「日本産カミキリムシ」: 222, 359. 東海大学出版会, 秦野.
- 5) Tshernyshev & Dubatolov, 2005. *Euroasien ent. J.* 4: 49.
- 6) Fujimura, T., 1956. Miscellaneous notes of the Cerambycidae from Japan. *Kontyû* 24: 2-7.
- 7) Hayashi, M., 1980. *Check-List Coleopt. Japan* (19): 4.
- 8) 松本むしの会編, 1976. 「長野県のカミキリムシ」: 29.
- 9) 京浜昆虫同好会編, 1971. 「新しい昆虫採集案内(I)」: 91. 内田老鶴園新社, 東京.
- 10) 筒井 謙, 1985. 岩手県早池峰山におけるトホシカミキリの記録. 月刊むし (171): 39-40.

(〒183-0006 府中市緑町2-33-5-309)